

## [008]附属循環型社会システム工学研究センター活動 報告 : 8

<https://doi.org/10.15017/2551027>

---

出版情報 : 附属循環型社会システム工学研究センター活動報告. 8, 2016-06-24. Research Institute of Environment for Sustainability, Kyushu University

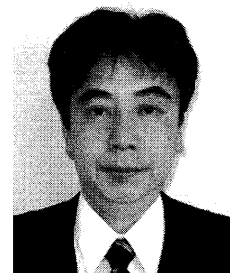
バージョン :

権利関係 :



## 巻頭言

### センター長就任のご挨拶とご協力をお願い



センター長・教授 原 一広

巻頭言を書かせていただくに当たり、まず申し上げなければならない事に平成28年4月14日21時26分に熊本で発生した地震があります。福岡でも緊急地震速報のアラートの後に大きな揺れがありました。その際、思い起こされましたのが平成17年3月20日に発生した西方沖地震であり、引き続いて平成23年3月11日に未曾有の被害をもたらした東北地方太平洋沖地震でした。地震の揺れの直後には、以前感じた戦慄の感覚が再び全身を強く走り、月日が過ぎていく中において薄らいでいた感覚が鋭く思い起こされました。また、時間が経ち、報道機関から送られてくる壮絶な現地の状況から以前の地震の時の様に、自然エネルギーがいかに大きいか、人間がいかに無力であるかを再び思い知らされました。同様に再び思い起こされた事に、地震の被害は一瞬にして起こり終わりますがその影響は長時間に及ぶ事です。長年維持された環境が破壊され、日常では起きない事態が発生している状況を見る度に、人間にとって環境の保持が如何に重要かを再認識致しました。

附属循環型社会システム工学研究センターは、環境の保全の為に循環型社会構築を目標として発足し今年度で9年目となります。担うべき役割はますます大きくなっており、今後とも循環型社会の構築の為に研究教育に邁進する所存ではありますが、6研究室の教員で出来る事には限りがあり各位のご協力無しには成果をあげる事は難しいと存じます。是非とも皆様よりのご高配を承りたく、心よりのお願いをもちまして結びの言葉とさせていただきます。